

社会資本総合整備計画
都市再生整備計画 事後評価シート

坂田地区

平成27年3月

埼玉県桶川市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	桶川市		地区名	坂田地区			面積	325 ha					
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年		交付対象事業費	640		国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業		事業名 道路(3・4・23坂田寿線(第2工区)・市道10-1号線・市道11-1号線)、公園(坂田原南公園)、地域生活基盤施設、土地区画整理事業(坂田西特定土地区画整理事業)											
			提案事業		駅東口整備調査事業、組合区画整理推進助成事業											
	当初計画から削除した事業		基幹事業		道路(市道5212号線・市道5230号線・市道5040号線)		削除/追加の理由		地元との調整により事業の削除				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		指標に影響するが数値はそのままとした。	
			提案事業		-		-		-		-		-		-	
	新たに追加した事業		基幹事業		-		-		-		-		-		-	
			提案事業		坂田寿線第3工区調査事業、事後評価調査事業		早期事業着手のため調査事業の追加。事業効果計測のため事後評価調査の追加		-		-		-		なし	
交付期間の変更		当初	平成22年度～平成26年度		変更による事業、指標、数値目標への影響		なし									
		変更	なし													
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期				
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値									
	指標1	世帯数	世帯	1,748	H21	1,950	H26	1,965	2,108	○	あり なし	土地区画整理事業による狭隘道路の解消や良好な宅地基盤の形成や、住民意見をふまえた公園整備などにより、地区内の世帯数の増加につながった。	-			
	指標2	緊急車両の通行可能路線数	本	59	H21	79	H26	70	77	△	あり なし	● 土地区画整理事業を中心とした狭隘道路の解消を着実に進めることにより、緊急車両の通行可能路線数の着実な増加につながった。	H28年4月			
指標3	交通事故発生件数	件	88	H21	75	H26	86	82	△	あり なし	● 歩行者の安全性確保のため、横断歩道や歩行空間の明示、歩道の整備、狭隘道路の解消等を実施したが、目標値には届かなかった。しかしながら、市全体の交通事故件数は減少傾向であり、計画区域内の人口増加状況や道路整備状況をみた場合、一定の効果があつたことが伺える。	-				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期				
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値									
その他の数値指標1	防災施設(防災倉庫)整備率	%	43	H21	/	/	/	86	/	/	指定避難場所や避難所でありながら、防災倉庫が未整備な箇所について、防災倉庫の着実な整備を行うことで、未整備箇所の解消につながった。また、土地区画整理事業により災害に対する安全性が向上した。	-				
4)定性的な効果発現状況	*3・4・23坂田寿線の国道17号線との交差点部において、右折レーンを整備することで、大幅な渋滞解消ができた円滑な道路ネットワークが形成された。また交差点部等で広幅員の歩道を確保することで、交差点部での学生の通学時等での信号待ちの滞留空間が確保され、安全性も向上した。 *坂田原南公園では、住民意見を取り入れた計画を行うことによりニーズをふまえた公園整備ができ、完成後は地域の住民の方に愛着をもって利用して頂いている。															
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等							
	モニタリング	モニタリング調査の実施			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				● 計画途中段階で、モニタリングを実施することで事業の効果を確認し、今後の事業内容の変更等に活用していく。							
	住民参加プロセス	住民自身の手による特徴ある公園づくり			都市再生整備計画に記載し、実施できた				● 公園整備に限らず、住民に身近な施設整備等については、市民のニーズや課題を踏まえた整備を行っていく。							
持続的なまちづくり体制の構築	-			-				-								

様式2-2 地区の概要

坂田地区(埼玉県桶川市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 安心して安全に住み継ぐことのできる良好な住環境の形成 目標1 より良い住環境整備を促進し、地区内人口(世帯)の増加を目指す。 目標2 地区内の主要道路・生活道路を整備し歩行者・自転車等の安心安全を確保する。また、首都圏中央連絡自動車道の桶川加納ICのアクセス道路など主要幹線道路を整備し、道路ネットワークを強化する。 目標3 災害に対応できる地区内拠点・防災設備の整備を図る。	世帯数	世帯	1,748	H21	1,950	H26	2,108	H26
	緊急車両の通行可能路線数	本	59	H21	79	H26	77	H26
	交通事故発生件数	件	88	H21	75	H26	82	H26
	防災施設(防災倉庫)整備率	%	43	H21	-	-	86	H26



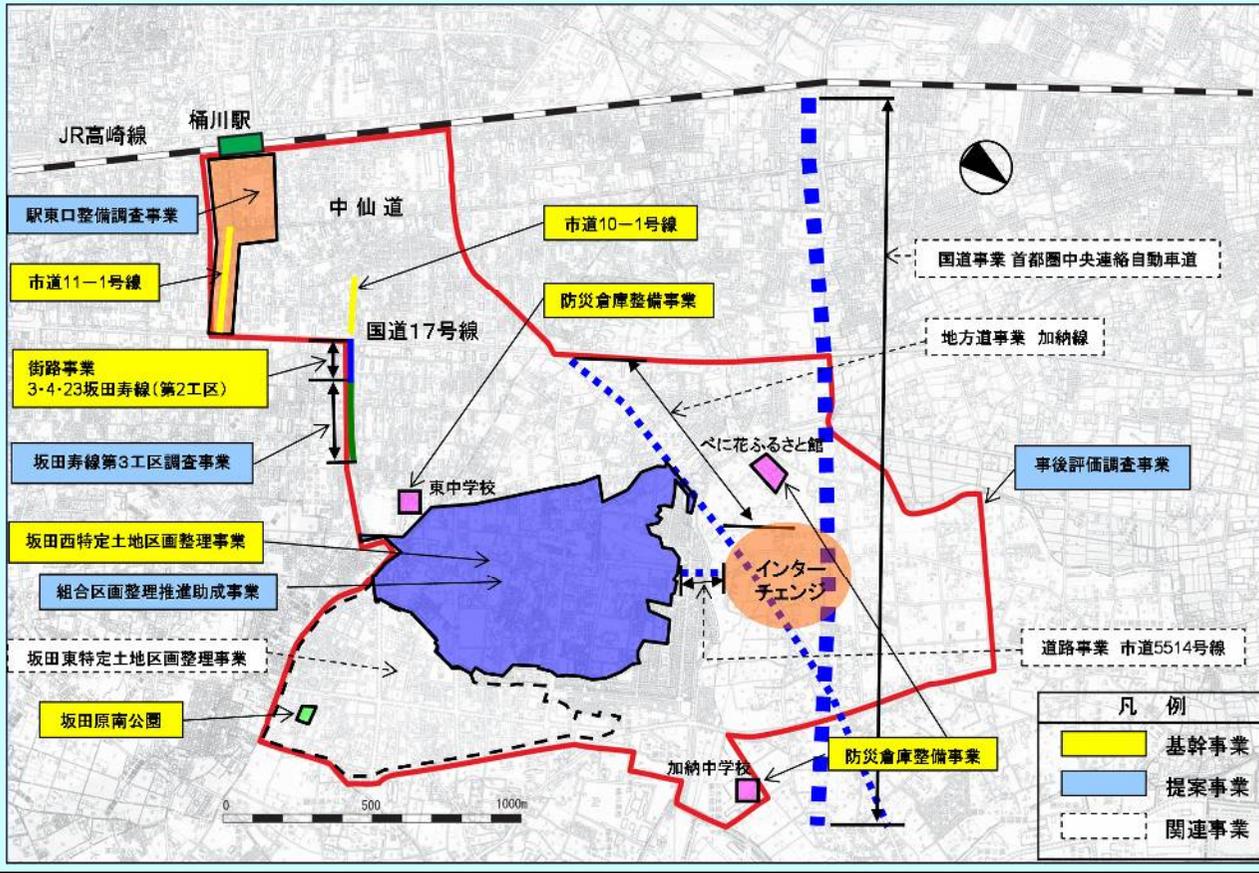
老朽化した舗装整備と共に、歩行者への安全性確保のための横断歩道や白線の明確化のための市道11-1号線整備



渋滞緩和のための右折レーンの設置や安全な歩行空間の確保のための3.4.23坂田寿線の整備



住民意見をふまえた地域の憩いの場となる坂田原南公園



老朽化した舗装整備と共に、歩行者への安全性確保のための横断歩道や白線の明確化のための市道10-1号線整備



狭隘道路の解消や良好な都市基盤としての坂田西特定地区画整理事業



住民意見をふまえた地域の憩いの場となる坂田原南公園

まちの課題の変化

- ・首都圏中央連絡自動車道の桶川加納ICの供用開始時に、交通安全・生活環境に大きな影響を及ぼす生活道路を通過する車両の増加が懸念されたが、3・4・23坂田寿線整備や関連事業である市道5514号線の整備など、生活道路への通過車両の流入を緩和する幹線道路整備により、交差点部等での渋滞の緩和を図り、円滑な道路ネットワークが形成できた。3・4・23坂田寿線について、歩行者の安全を向上させる歩道の拡幅工事が必要な箇所が一部残されている。
- ・交通安全・防災の観点から行止まり道路や狭隘道路の早急な解消が必要であったが、土地区画整理事業等により、緊急車両の通行や歩行者の通行上問題となっていた狭隘道路について解消された。
- ・駅東口の安全性確保・利便性向上のため、交通結節点機能を強化する必要があったが、駅東口周辺の安全性確保・利便性向上に向け、整備に向けた調査や用地買収(関連事業)等を進めることができた。
- ・地区内人口の増加や更なる地域活性化のために住環境の整備推進が望まれたが、土地区画整理事業により、地域住民等の意見をふまえた公園整備や道路整備など、良好なインフラ整備が進み、それに伴う住宅着工も着実に進んだ。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・緊急車両の通行や歩行者の安全性に課題のある狭隘道路の解消について、土地区画整理事業地区周辺エリアの狭隘道路についても優先順位を見極め、着実な整備を進めていく。
- ・ボトルネックとなっている3・4・23坂田寿線の第3工区の整備により、安全な歩行空間を連続的に確保する。
- ・桶川駅東口周辺の安全性確保・利便性向上に向け、まずは市の顔となる駅前広場整備や主要道路の整備を着実に進めていく。